

平成18年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績



HIV感染者・AIDS患者の発生動向

- ・平成18年、東京都に新たに報告されたHIV感染者とAIDS患者数は、453件となり、過去最多となった。
- ・全国の報告数に占める東京都の割合は、HIV感染者で約4割、AIDS患者は約3割であった。
- ・国籍別、性別のHIV感染者とAIDS患者報告数をみると、日本国籍男性が増加しており、全体約9割を占めている。
- ・推定感染経路別のHIV感染者とAIDS患者報告数をみると、性的接触が約9割を占め、同性間性的接触による感染が増加している。
- ・年齢別の推定感染経路をみると、20、30歳代では同性間性的接触の割合が多く、60歳以上では異性間性的接触の割合が高くなる。
- ・年齢別のHIV感染者をみると、20、30歳代で多く、AIDS患者報告数は、30、40歳代に多い。
- ・推定感染地域をみると、国内が多く、増加している。
- ・ニューモシスチス肺炎（カリニ肺炎）の発症を契機とするAIDS患者報告が多く、AIDS患者報告の約半数を占めている。



検査・相談・療養体制

- ・平成18年、東京都エイズ電話相談件数は、やや減少したが、都保健所の件数は、増加した。
- ・電話相談は、男性に多く、年齢では20歳代が多い。
- ・電話相談内容の多くは、感染不安や感染経路に関するものが多い。
- ・都内の保健所のHIV検査件数は、近年、増加傾向にある。
- ・平成18年、東京都南新宿検査・相談室及び都保健所のHIV検査における陽性率は増加し、東京都南新宿検査・相談室の陽性率は、過去最高となった。
- ・免疫機能障害による障害者手帳の交付数は増加し、HIV感染者とAIDS患者の累積報告数の半数以上を占めている。
- ・梅毒の陽性(STS)率は、男性で高く、クラミジアは、女性で高い。特にクラミジア(IgG)は、保健所における女性で、3割を超えている。

本「AIDS News Letter No.116（資料編）」は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、東京都に平成17年に法定報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。

図表中では、平成をH、平成元年をH1、東京都南新宿検査・相談室を南新宿と記載した。また、特別区保健所と東京都の保健所を合わせて、都内の保健所と表現した。

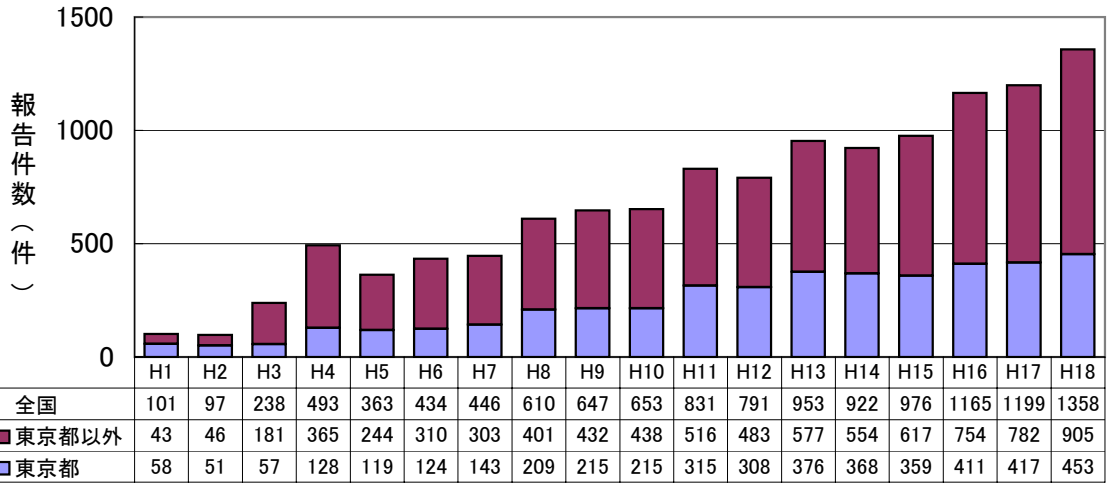
目次

I HIV感染者及びAIDS患者の発生動向		
1-1	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都と全国の報告数年次推移
1-2	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染経路別報告数年次推移
1-3	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染地別報告数年次推移
1-4	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の国籍別・性別報告数年次推移
1-5	HIV感染者及びAIDS患者	東京都のHIV感染者とAIDS患者の報告数年次推移
1-6	HIV感染者及びAIDS患者	全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
1-7	HIV感染者及びAIDS患者	東京都以外のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
1-8	HIV感染者	全国に占める東京都のHIV感染者報告数割合年次推移
1-9	HIV感染者	東京都のHIV感染者の国籍別・性別報告数年次推移
1-10	HIV感染者	東京都のHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
1-11	HIV感染者	東京都の日本国籍男性におけるHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
1-12	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別推定感染経路別報告数（平成18年）
1-13	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別年次推移
1-14	AIDS患者	全国に占める東京都のAIDS患者割合年次推移
1-15	AIDS患者	東京都のAIDS患者の国籍別、性別報告年次推移
1-16	AIDS患者	東京都のAIDS患者の推定感染経路別報告数推移
1-17	AIDS患者	東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の推定感染経路別報告数推移
1-18	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別感染経路（平成18年）
1-19	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別報告数年次推移
1-20	AIDS患者	東京都のAIDS患者指標疾患
相談・検査・療養体制		
2-1	エイズ電話相談	東京都のエイズ電話相談件数年次推移
2-2	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」における相談者の性別年次推移
2-3	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」における相談者の年齢別年次推移
2-4	エイズ電話相談	「東京都のエイズ電話相談」の相談内容年次推移
2-5	HIV検査	東京都のHIV検査件数年次推移
2-6	HIV検査	東京都のHIV検査における陽性件数・陽性率年次推移
2-7	医療機関	東京都のHIV感染者報告の届出別割合（平成16年～平成18年）
2-8	身体障害者手帳交付数	東京都のHIV感染者・AIDS患者累積報告数と身体障害者手帳（免疫機能障害）交付数年次推移
2-9	性感染症検査	東京都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数（平成18年）
世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数		

1. HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

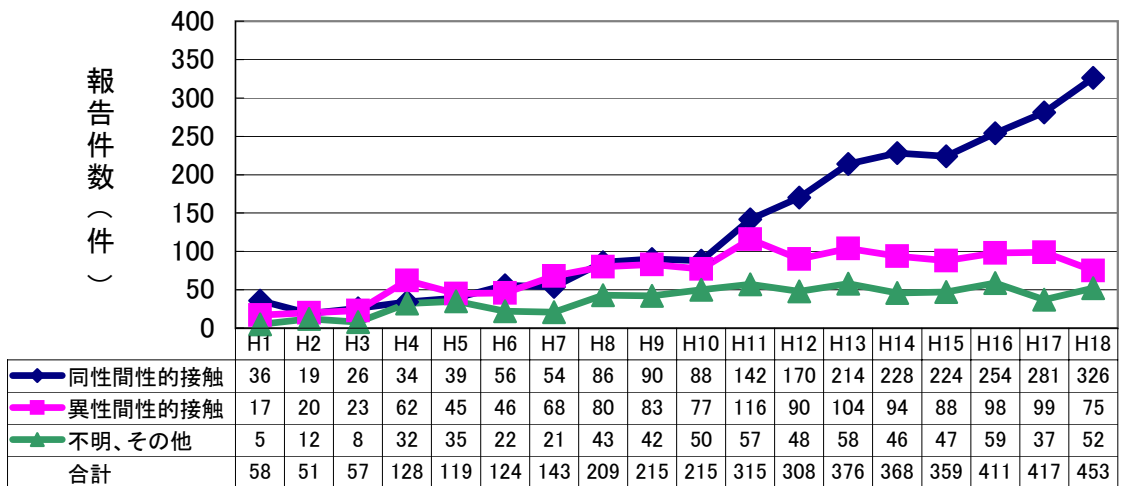
[HIV感染者とAIDS患者の集計 (HIV + AIDS)]

1-1
東京都と全国
の報告数年次
推移



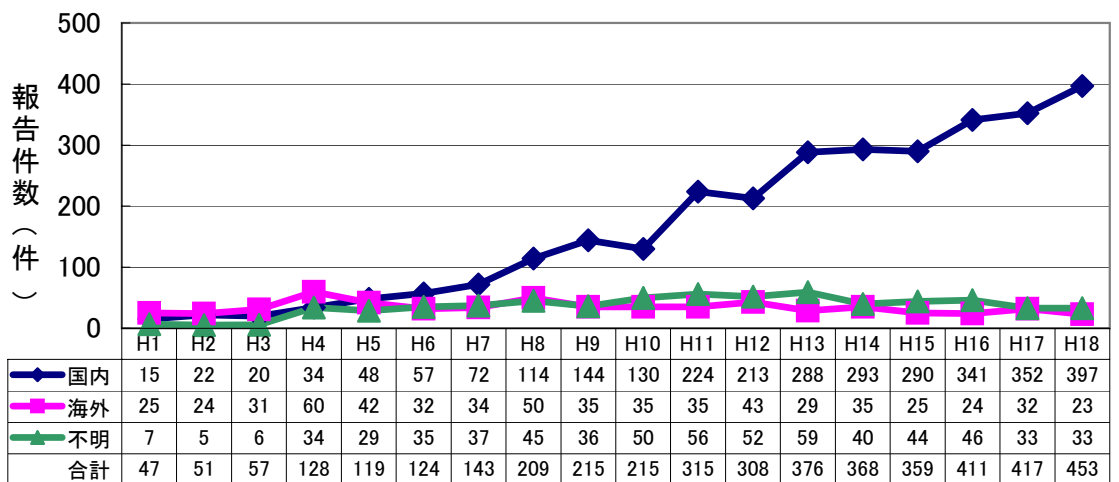
東京都、東京都以外とも報告件数が増加した。全国で見ると、3年連続で1,000件を超え、平成18年は過去最多となった。

1-2
東京都の推定
感染経路別報告
数年次推移



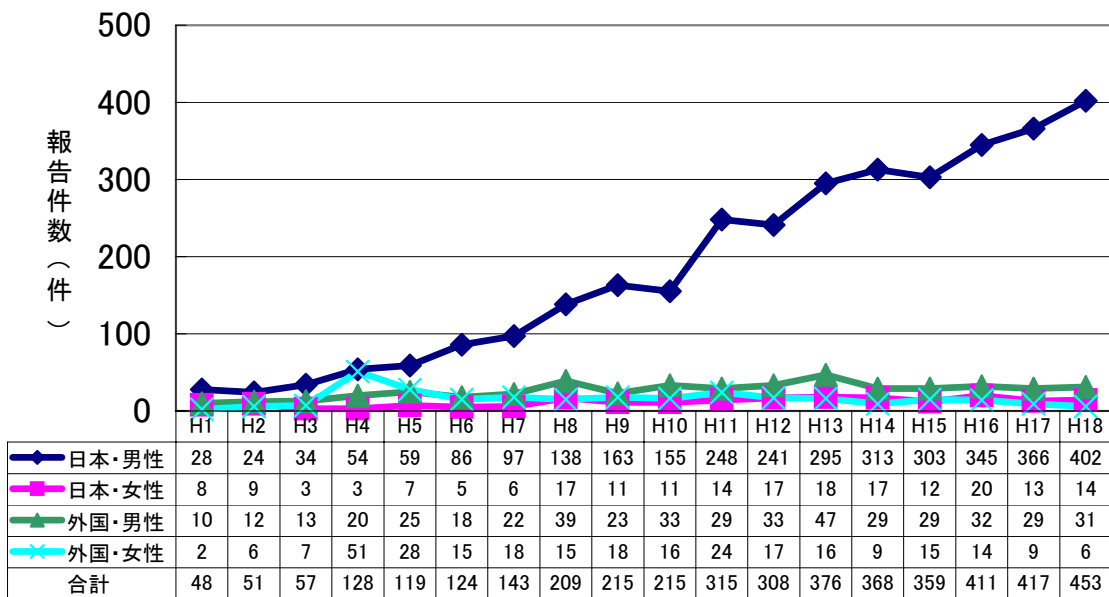
同性間性的接触による報告数は、年々増加しており、平成18年は過去最多となった。一方、異性間性的接触は、やや減少した。

1-3
東京都の推定
感染地別報告
数年次推移



国内による推定感染地報告が、年々増加している。一方、海外は、やや減少した。

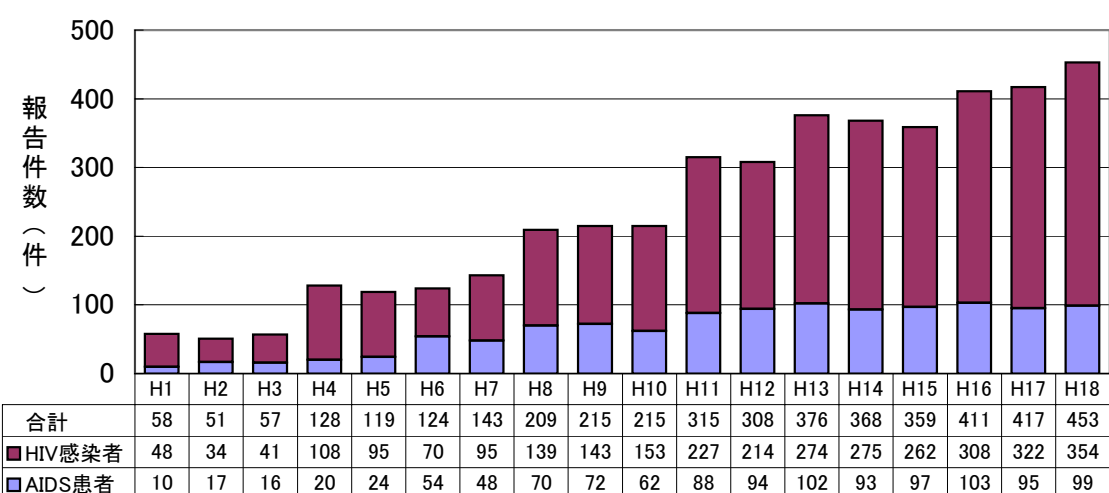
1-4
東京都の国籍別・性別報告数
年次推移



日本国籍男性の報告数が、年々増加しているが、それ以外では、横ばい~やや減少となっている。

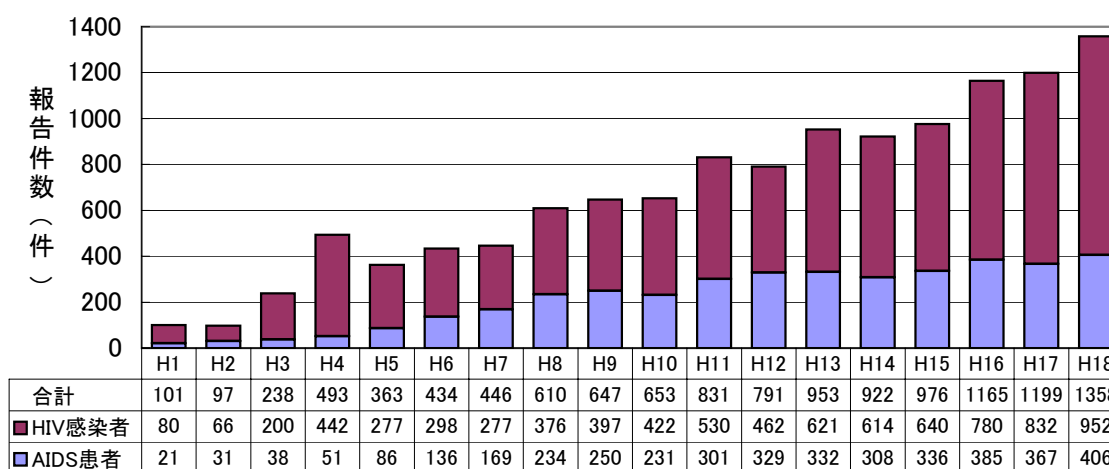
[HIV感染者及びAIDS患者の集計 (HIV/AIDS)]

1-5
東京都のHIV感染者とAIDS患者の報告数
年次推移



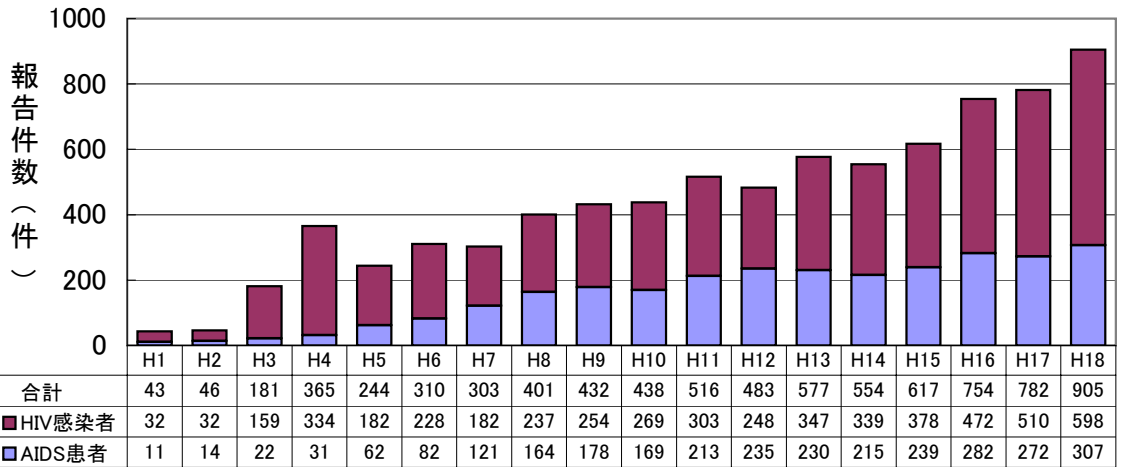
HIV感染者報告数は過去最多、AIDS患者報告数は過去3番目となった。

1-6
全国のHIV感染者とAIDS患者報告数
年次推移



平成18年、全国において、HIV感染者、AIDS患者報告数ともに過去最多となった。特にHIV感染者の報告数が増加した。

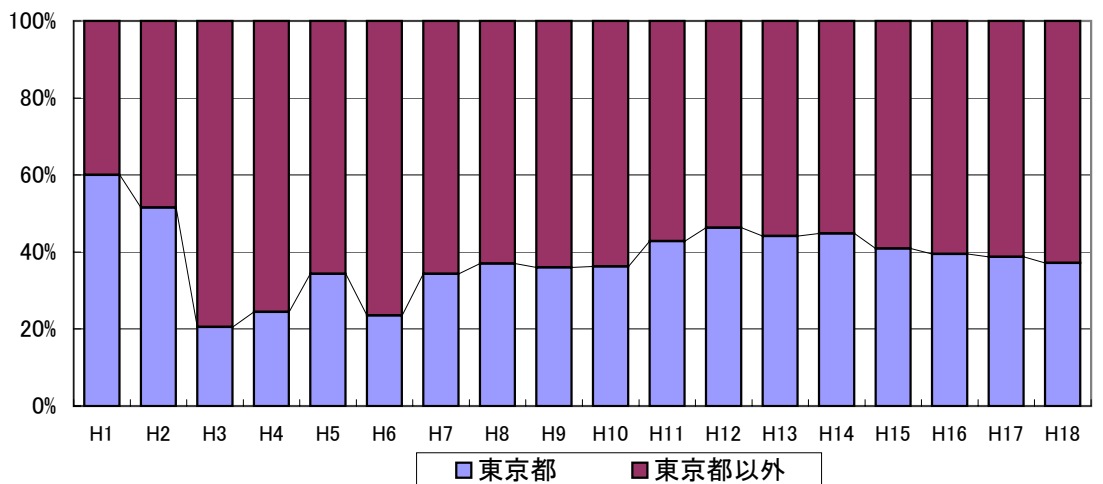
1-7
東京都以外の
HIV感染者と
AIDS患者報告
数年次推移



平成18年、東京都以外の道府県において、HIV感染者、AIDS患者報告数ともに過去最多となった。特にHIV感染者の報告数が増加した。

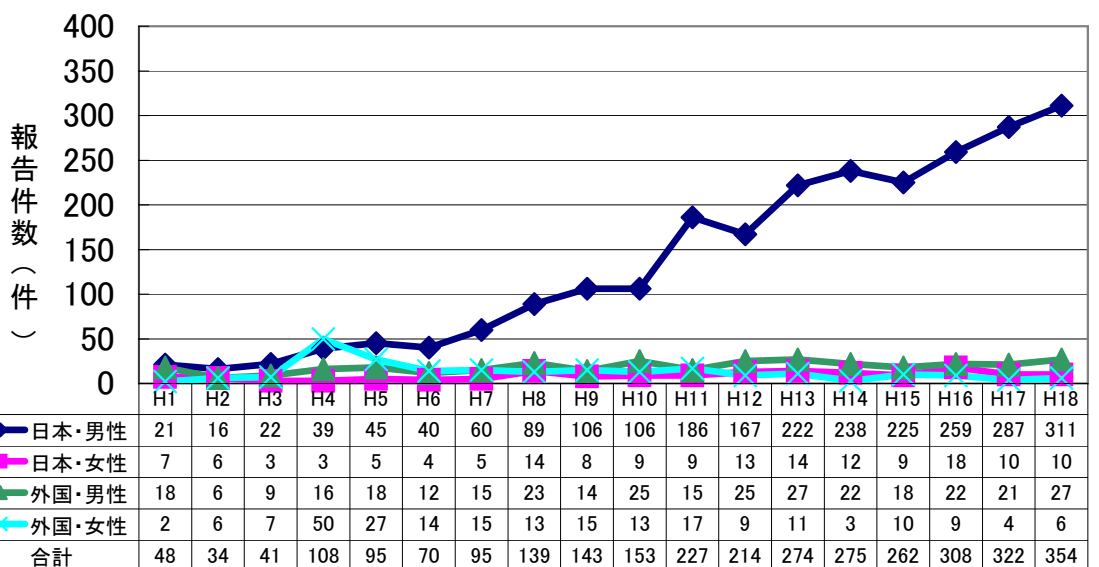
[HIV感染者の集計 (HIV)]

1-8
全国に占める
東京都のHIV感
染者報告数割
合年次推移



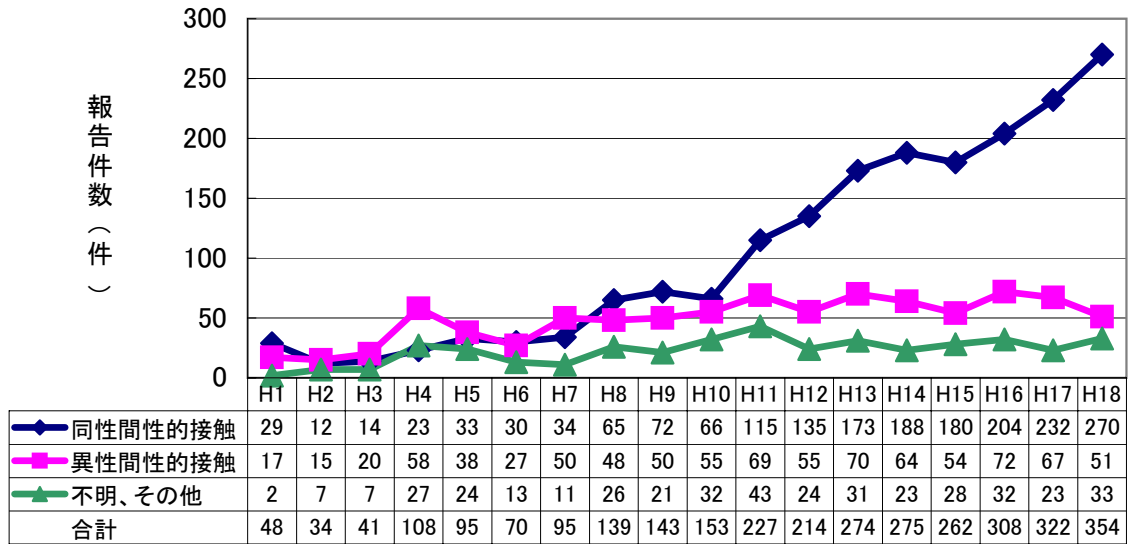
東京都のHIV感染者報告数は、近年、全国の約4割で推移している。

1-9
東京都のHIV感
染者の国籍
別・性別報告
数年次推移



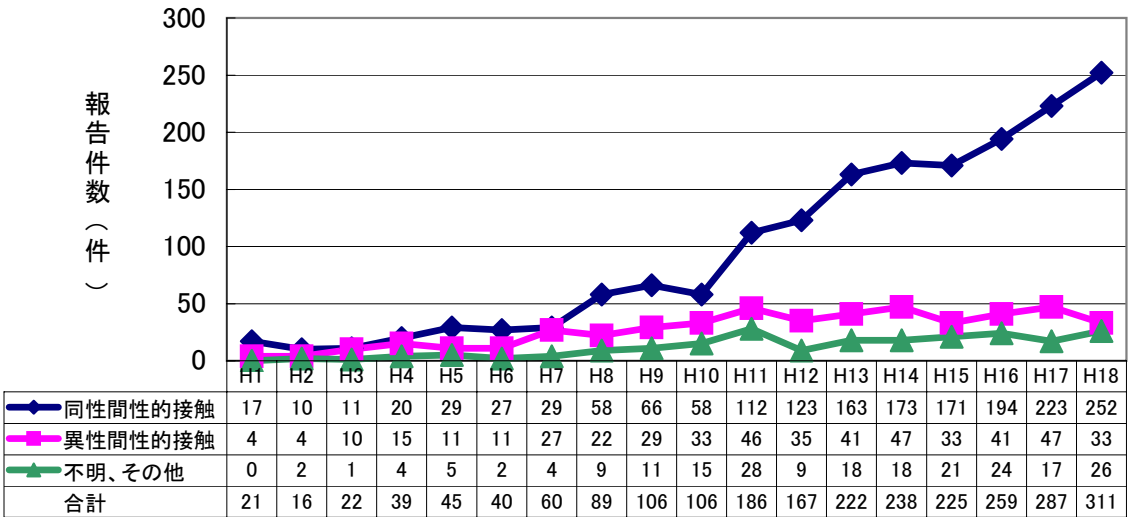
平成12年以降、日本国籍男性の報告数が増加している。また、近年、外国籍男性の報告数も、やや増加している。

1-10
東京都のHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移



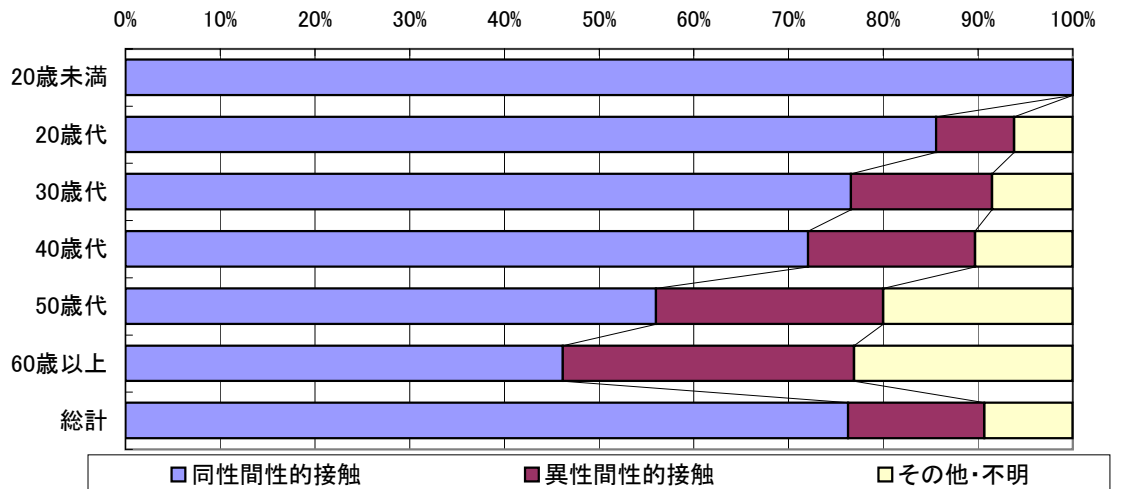
同性間性的接触による報告数が増加しているが、一方、異性間性的接触の報告数はやや減少した。

1-11
東京都の日本国籍男性におけるHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移



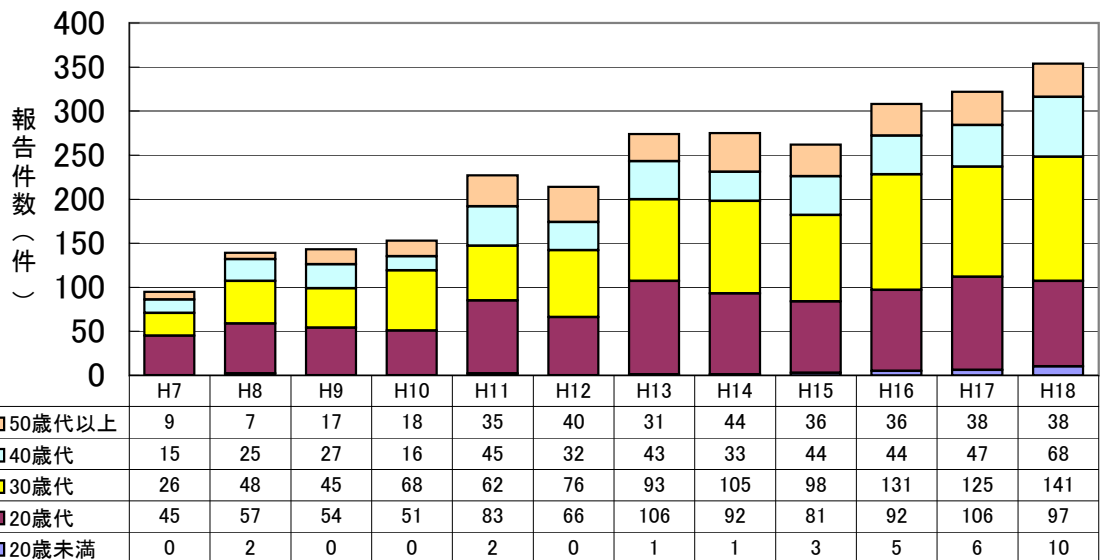
HIV感染者報告数の増加が多い日本国籍男性でみると、特に平成11年から同性間性的接触による感染が増加している。一方、異性間性的接触による感染はやや減少している。

1-12
東京都のHIV感染者の年齢別・推定感染経路別報告数(平成18年)



20歳未満と20～40歳代は、同性間性的接触による感染が多く、70%以上を占めている。しかし、50歳代以上では、その割合が約半分となり、異性感性的接触の割合が多くなっている。

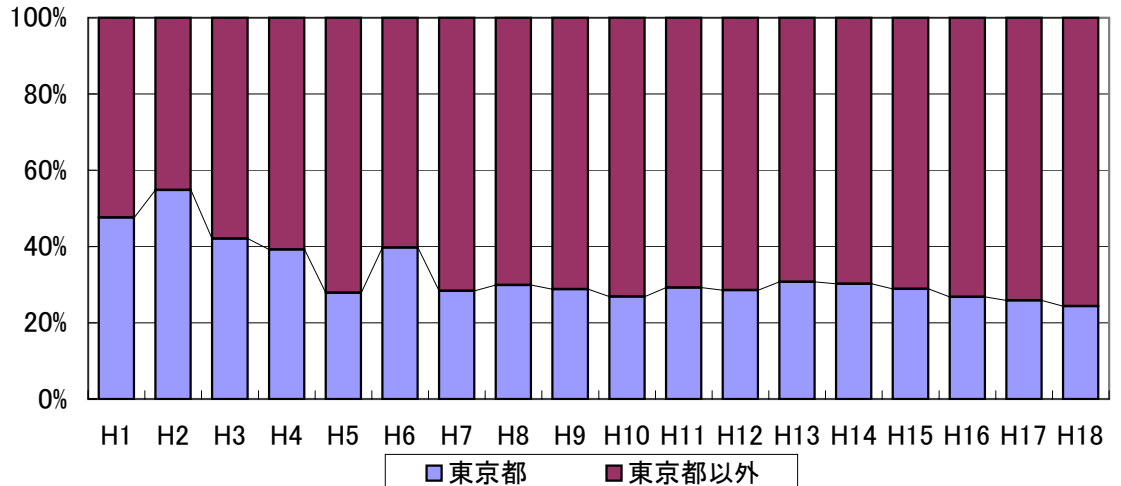
1-13
東京都のHIV感
染者の年齢別
報告数年次推
移



平成18年は、特に30歳代及び40歳代で報告件数が増加した。20歳代ではやや減少したが、20歳未満では、はじめて2桁(10件)の報告数となった。

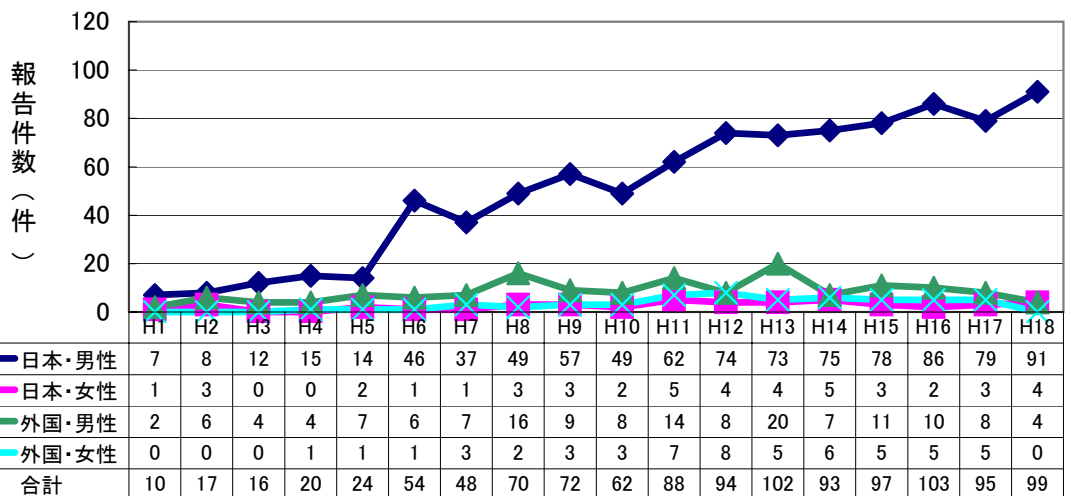
[AIDS患者の集計 (AIDS)]

1-14
全国に占める
東京都のAIDS
患者報告数割
合年次推移



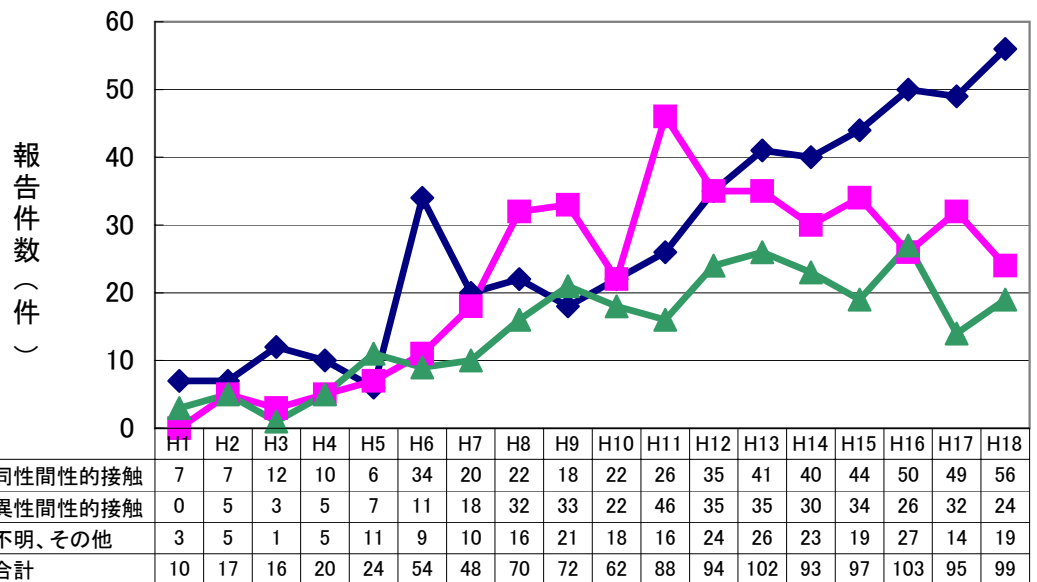
東京都のAIDS患者報告数は全国の約3割で推移している。

1-15
東京都のAIDS
患者の国籍
別・性別報告
数年次推移



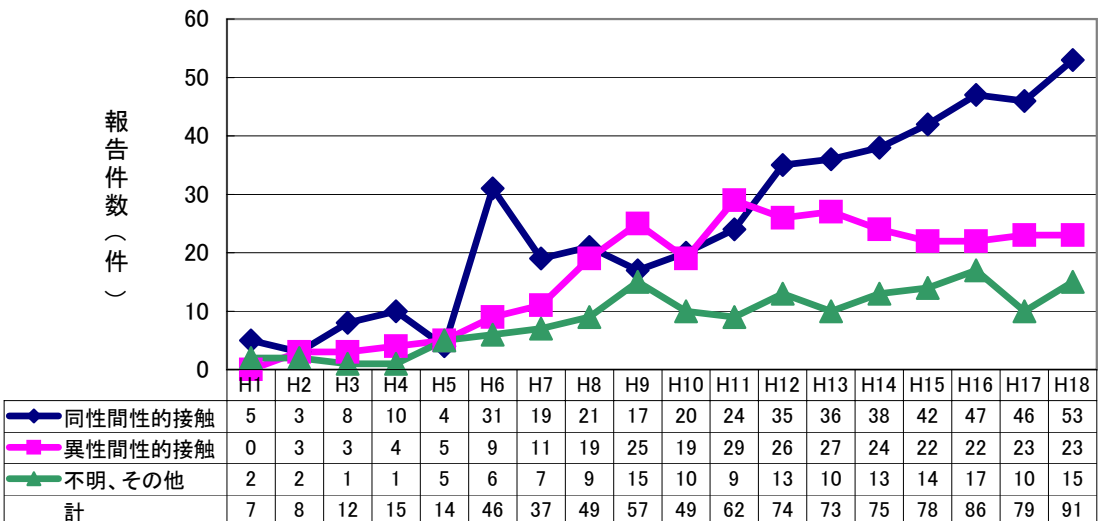
日本国籍男性で平成7年以降、報告数が年々増加している。日本国籍女性や外国国籍では、大きな変化はない。

1-16
東京都のAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移



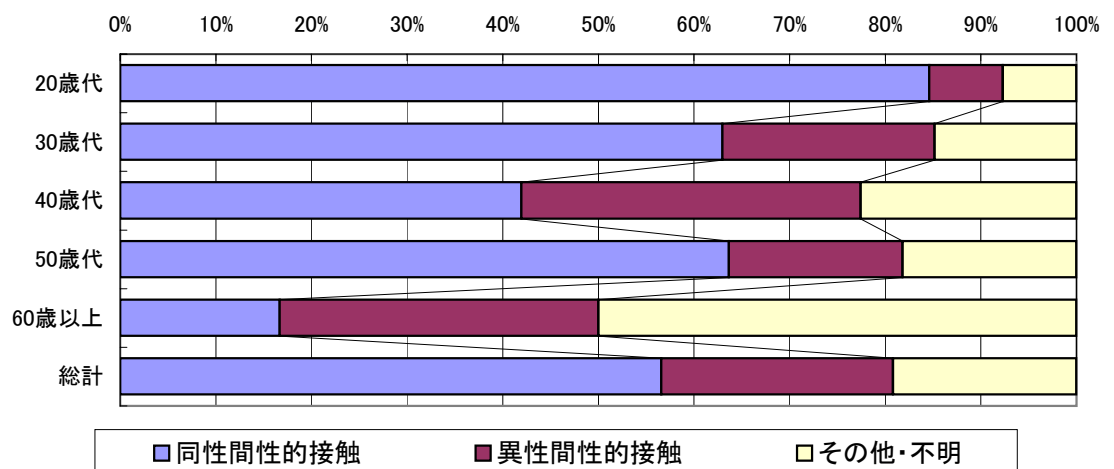
平成13年以降、同性間性的接触による報告数が、異性間性的接触によるものを上回っている。

1-17
東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移



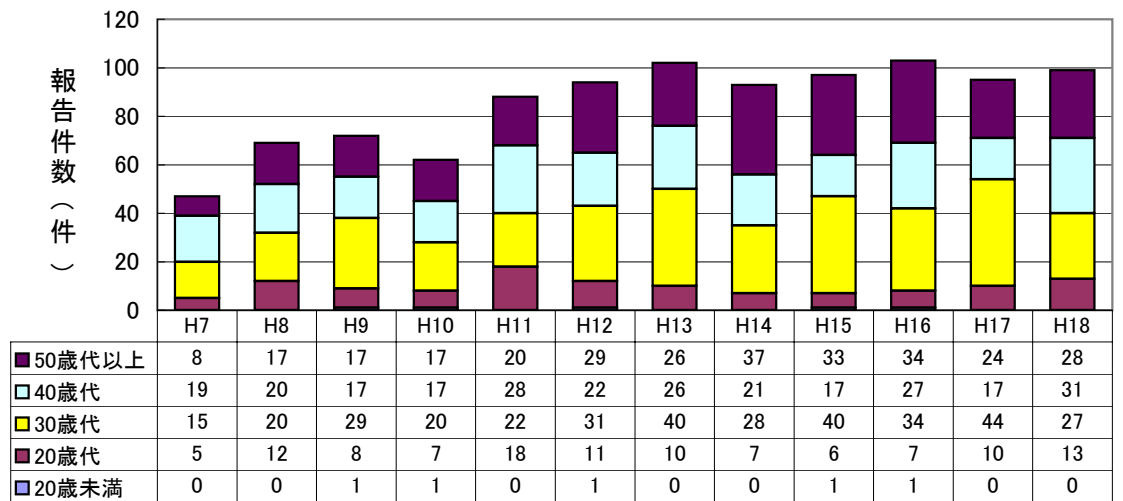
報告数の多い日本国籍男性でみると、平成12年以降、常に同性間性的接触による感染報告が異性間性的接触によるものを上回るようになっている。

1-18
東京都のAIDS患者の年齢別・推定感染経路別報告数(平成18年)



20歳代、30歳代、50歳代では、同性間性的接触が6割を超えている。一方、40歳代、60歳代では異性間性的接触の割合が約3割を超えている。

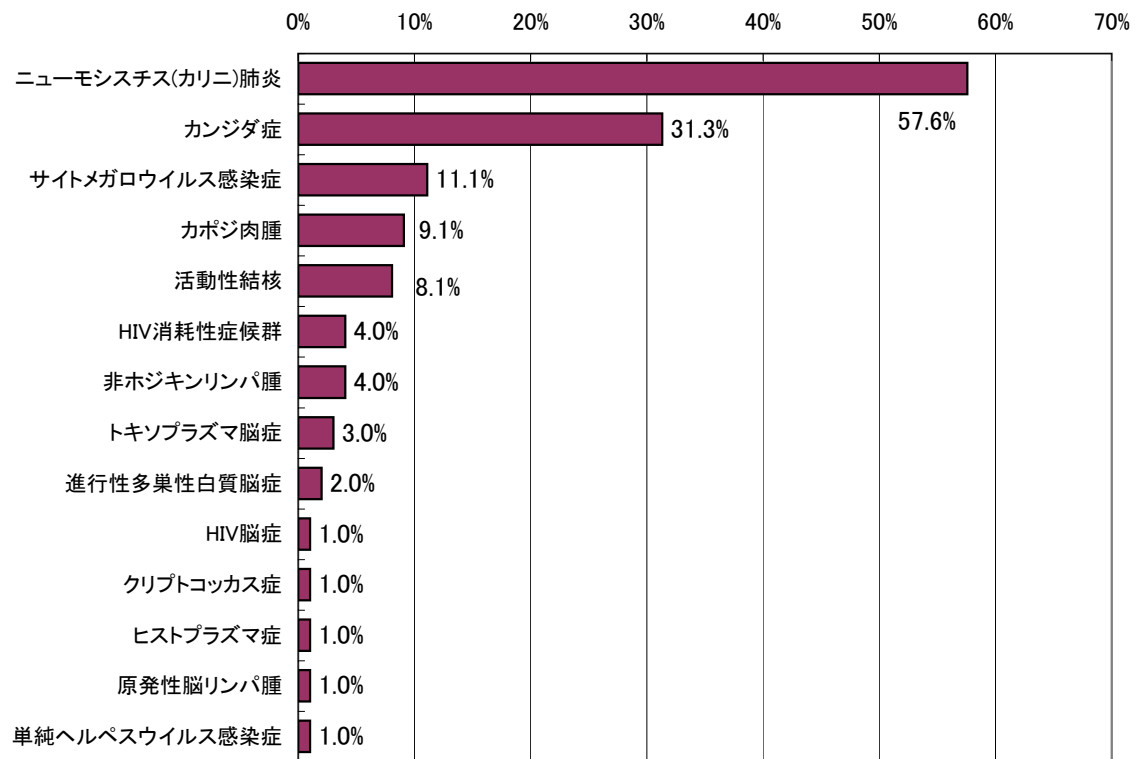
1-19
東京都のAIDS
患者の年齢別
報告数年次推移



平成18年は、30歳代の報告件数が減少し、40歳代以上の報告件数が増加した。

1-20
東京都のAIDS
指標疾患
(平成18年)

* 複数回答

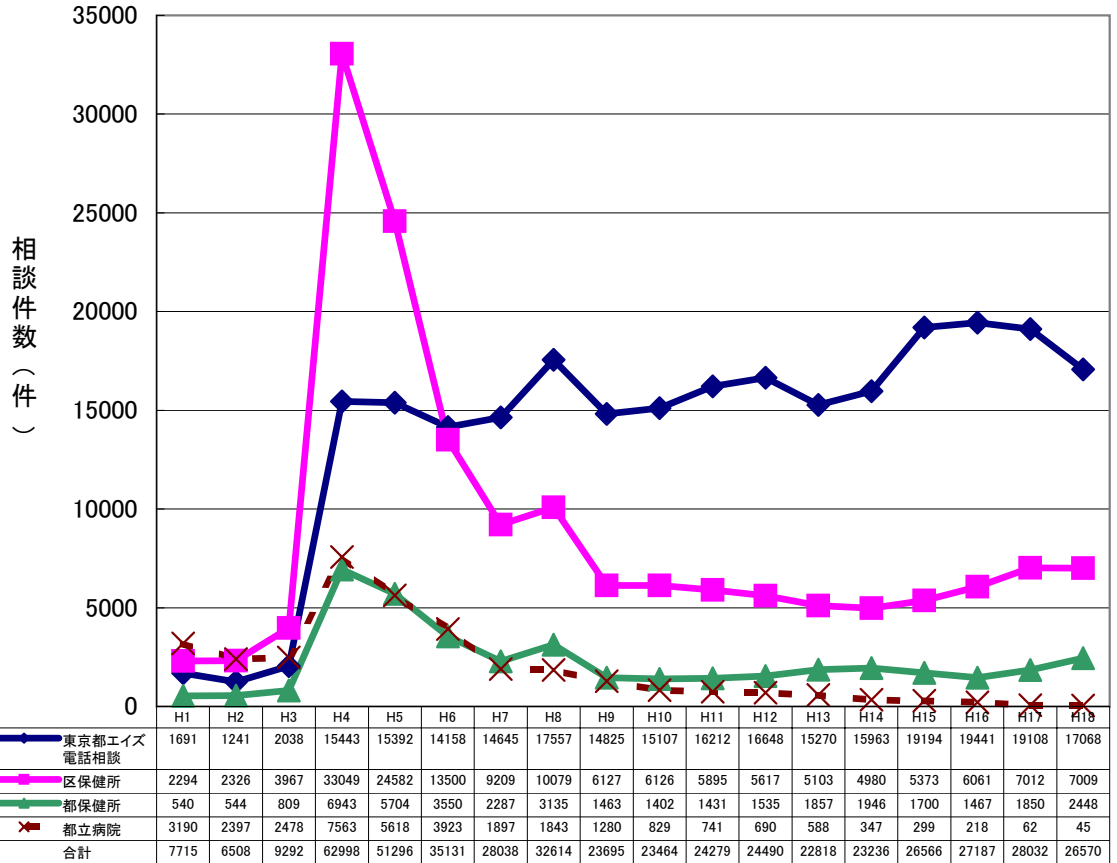


約半数が、ニューモシスチス肺炎(カリニ肺炎)によりAIDSが診断されている。次いで、カンジダ症、サイトメガロウイルス感染症、カポジ肉腫、活動性結核の順で診断されている。

2. 相談・検査・療養体制

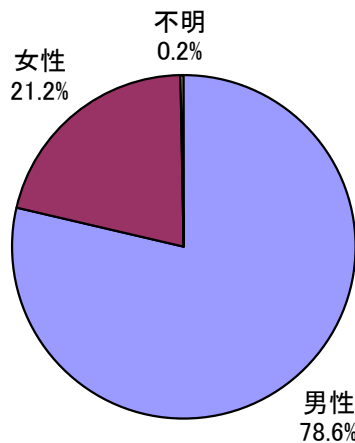
[相談]

2-1 東京都エイズ電話相談件数年次推移

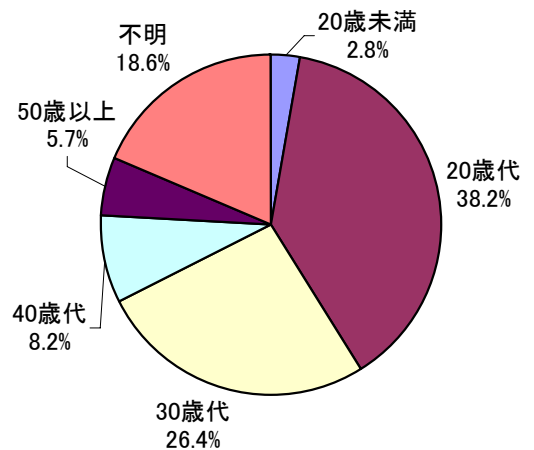


エイズが大きな社会問題となった平成4年には電話相談件数が、一時的に急増した。その後減少し、ここ数年横ばいであったが、平成15年以降増加していたが、平成18年はやや減少した。
 なお、「東京都エイズ電話相談」は、平成10年度以前はエイズ対策係で行っていた電話相談の件数が含まれている。
 *平成11年度以降は、すべて「東京都エイズ電話相談」の件数である。

2-2 「東京都エイズ電話相談」における相談者の性別 (平成18年)



2-3 「東京都エイズ電話相談」における相談者の年齢 (平成18年)

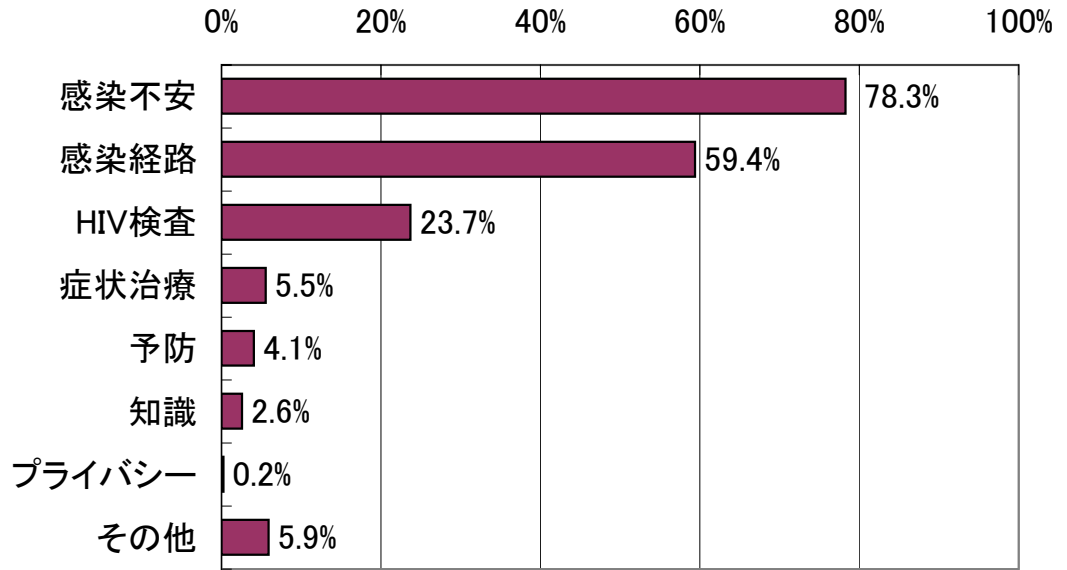


性別については、電話相談員が判断しており、約8割が男性であった。
 年齢別にみると、20歳代の相談が最も多く約4割、30歳代で約3割であった。

2-4

「東京都エイズ電話相談」の相談内容(平成18年)

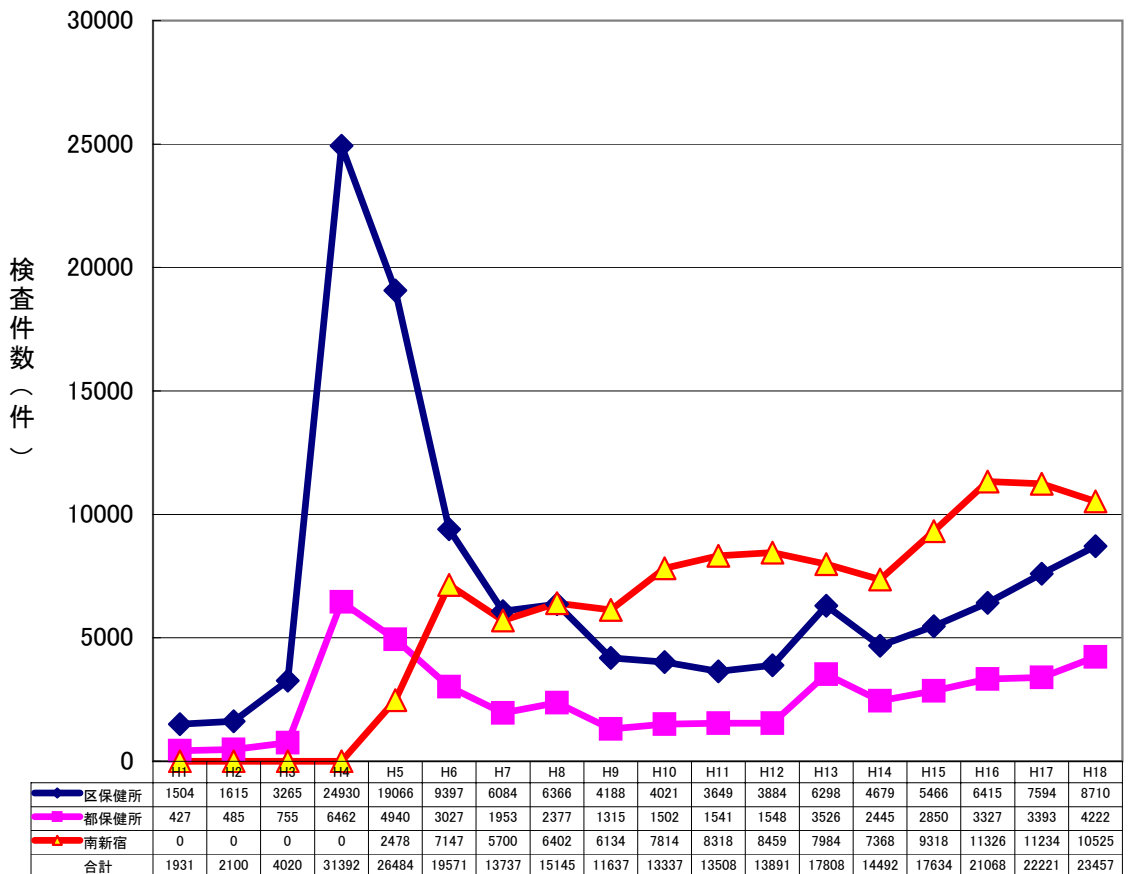
* 複数回答



東京都エイズ電話相談の相談内容は、感染不安が約8割と最も多く、次に感染経路で約6割であった。相談内容が多岐にわたり、重複する場合もある。

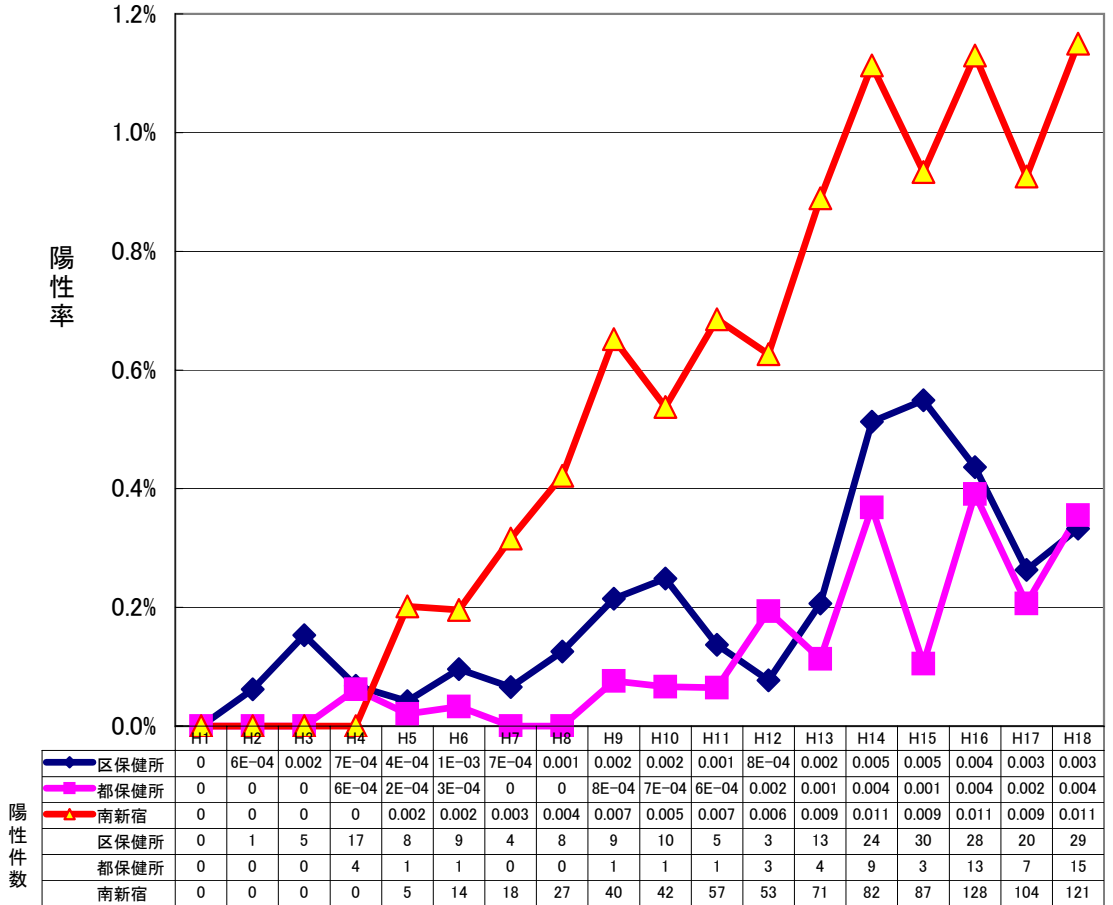
[検査]

2-5 東京都のHIV検査件数年次推移



都内の保健所(区、都の保健所)の検査件数は、平成4年エイズが社会問題となった後減少したが、平成15年以降増加し、平成18年は、ここ数年でみると、最多となっている。東京都南新宿検査・相談室の検査件数は、平成10年以降横ばいであったが、土・日曜日の検査を開始した平成15年から増加し、平成16年以降10,000件を超えて推移している。
 なお、平成13年5月～10月に、都内の保健所ではHIV検査時に希望者にはC型肝炎ウイルス抗体検査が無料匿名で行われたため、平成13年の都内の保健所での検査件数は、一時的に増加した。

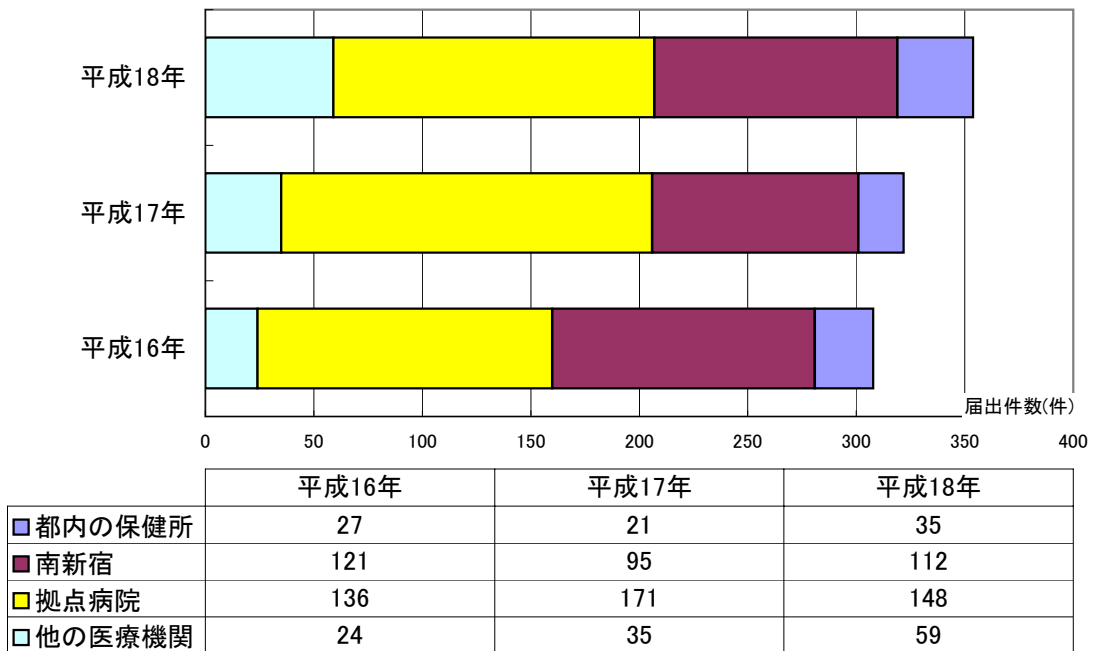
2-6
東京都のHIV検査における陽性件数・陽性率年次推移



平成18年は、すべての検査機関で前年よりも陽性率が増加し、特に東京都南新宿検査・相談室の陽性率は、1.15%で過去最高となった。
また、東京都南新宿検査・相談室の陽性件数は121件と3年連続で100件を超えた。

[医療機関]

2-7
東京都のHIV感染者報告の届出別割合

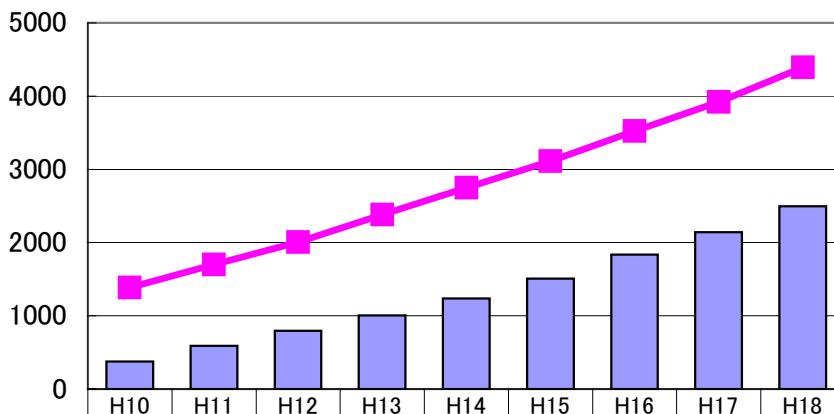


平成18年、都内の保健所と東京都南新宿検査・相談室の届出件数が増加し、あわせて全体の約4割を占めている。また、エイズ拠点病院以外の医療機関からも届出件数が増加している。

[身体障害者手帳]

2-8
東京都のHIV感染者、AIDS患者累積報告数と身体障害者手帳(免疫機能障害)交付数

件数
(件)



	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
■ 手帳交付数(免疫機能障害)	377	592	795	1007	1236	1507	1836	2143	2494
◆ 患者、感染者(累積)	1384	1699	2007	2383	2751	3110	3521	3921	4391

患者、感染者報告数の累積件数の増加とともに、身体障害者手帳(免疫機能障害)の交付数も増加している。
* 数値は、各年末

[性感染症]

2-9
東京都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数(平成18年)

		梅毒				淋菌		
		検査数(STS)	検査数(TPHA)	陽性数	陽性率(STS/陽性)	検査数	陽性数	陽性率
区保健所	男	3,542	1,794	54	1.5%	1,358	1	0.1%
	女	2,372	1,165	9	0.4%	655	4	0.6%
都保健所	男	1,773	80	81	4.6%	977	3	0.3%
	女	1,007	32	41	4.1%	544	9	1.7%
南新宿	男	744	13	13	1.7%	-	-	-
	女	406	1	1	0.2%	-	-	-
		クラミジア						
		検査数	陽性数(IgA)	陽性率(IgA)	陽性数(IgG)	陽性率(IgG)		
区保健所	男	3,710	519	14.0%	681	18.4%		
	女	2,462	542	22.0%	858	34.8%		
都保健所	男	1,684	363	21.6%	327	19.4%		
	女	1,005	328	32.6%	373	37.1%		
南新宿	男	743	77	10.4%	115	15.5%		
	女	407	82	20.1%	105	25.8%		

梅毒の陽性率(STS)は男性で高く、クラミジアの陽性率は女性が高い。特にクラミジア(IgG)は、保健所の女性で、3割を超えている。

3. 世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数

世界のHIV/AIDS流行状況 2006年末 現在 (UNAIDS/WHO) ○日本のHIV感染者、AIDS患者累計数 (厚生労働省)

HIV 感染者数(2006 年末現在)	
合計	3,950 万人 (3,410-4,710 万人)
成人	3,720 万人 (3,210-4,450 万人)
女性	1,770万人 (1,510-2,090 万人)
子供(15 歳未満)	230万人 (170-350 万人)

HIV感染者報告の累計数	
AIDS患者報告の累計数	

2006 年における新規HIV 感染者数	
合計	430 万人 (360-660 万人)
成人	380 万人 (320-570 万人)
子供(15 歳未満)	53 万人 (41-66 万人)

2006 年におけるAIDS による死亡者数	
合計	290万人 (250-350 万人)
成人	260 万人 (220-300 万人)
子供(15 歳未満)	38 万人 (29-50 万人)

推計値の右の()内の範囲に実際の数値が存在する。推計値・範囲は入手可能な最良のデータを基にして算出された。

発行：東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課エイズ対策係
郵便番号163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487 ファクシミリ03-5388-1432
e-mail S0000312@section.metro.tokyo.jp

★ 東京都南新宿検査・相談室（無料・匿名・電話予約）

月曜日から金曜日：午後 3時から午後 8時まで。

土・日曜日：午後 1時から午後 5時まで。

電話予約制 03-3377-0811

<予約受付時間>

月曜日から金曜日：午後 3時 30分から午後 7時まで。

土・日曜日：午後 1時から午後 4時 30分まで。なお、検査受付は業務時間の30分前まで。

*聴覚障害をお持ちの方のみ、ファクシミリでの予約申込みができます。

ファクシミリ 03-3377-0821

予約受付時間 月～金曜日：午後 3時 30分～午後 7時まで。

土・日曜日：午後 1時～午後 4時 30分まで。

★ 電話相談 電話 03-3292-9090

月曜日から金曜日：午前 9時から午後 9時まで。土・日・祝日：午後 2時から午後 5時まで。

※エイズに関する相談・検査（匿名・無料）は各保健所へ
（一部、性感染症検査も同時に可能）